

太子高校の飛翔 その10

太子高校の「今」 その2

本年度は、太子高校の「飛翔の年」と位置づけて、「翔る」を合い言葉に教育活動を展開します。この通信で本校の取組みについてお話することで、太子高校が飛翔する様子を知っていただければと考えています。

前回用いた生徒アンケートの結果から見えてきた「太子高校の今」を、別の視点から考えてみます。一つの教科が、年次全体でアンケートを実施してくれました。1 学年6クラスの結果は、ほぼ太子高校全体の傾向を示していると考えて良いでしょう。なぜなら、生徒の状況は年次による差異はそれほど無いということが、模擬試験等の結果から分かっているからです。

「中学の時、またはアクティブ・ラーニングをやっていなかった時に比べて、授業中に『分かった』と感じる機会が増えた」という問いに対して、肯定的に回答した生徒の割合が51.2%~59%だった3つのクラス（I群とします）では、「家庭で予習・復習、課題などをする時間が増えた」に対する肯定的な回答は38.4%~51.3%です。他の3クラス（II群とします）では、一つ目の問いには66.7%~75%の回答であり、二つ目の問いには56.4%~65.8%の回答ですから、この二つの問いには関連性があることがわかります。また、「ただ暗記するのではなく理解して覚えるように心がけている」という問いにおいては、I群では70%~71.8%であったのに対し、II群では79.5%~92.5%でした。

これらの事から、生徒は授業中に「理解して覚えよう」と意識することで、「分かった」と強く実感できるようになり、それが「もっと分かりたいから自分から勉強しよう」という意欲に直結するということになりました。ということは、授業中に教師が「理解する」ことに重点を置いた解説や言葉かけをすれば、最も効果的に生徒の学力を向上させられるということになります。ここで注意しなければならないのは、この言葉かけは「授業内容の説明」とは性質を異にするものであるということです。前回では、教師の意図的・計画的な言葉かけが有効であると述べましたが、今回はその内容が明確になりました。アクティブ・ラーニングの授業における教師の役割は、板書をきれいに整えることではなく、生徒の心を「アクティブ」にする言葉（理解をすすめるきっかけ）をかけることにあります。

太子高校の授業改善は、また一歩進みます。

ONE SHOT



校庭の椿（サザンカかも・・・？）の木です。秋になって、実がなりました。中心からちょっと下にほんのり赤く見えるのが、それです。あと少しで熟した色になるのでしょうか。そして！写真では小さく写っていますが、もう花芽がついているのです。人間は「暑い、暑い」と言っていた9月の初旬の撮影ですが、植物は次の季節に咲く準備を着々と進めていました。自然の力の確かさに感じ入った一枚です。

学校のカ・イ・ダ・ン

23日の金曜日は、体育大会です。連日、体育の時間を中心に練習が行われています。しっかりした声でかけ声を掛け、確かな足取りで行進の練習が繰り返されています。先日の雨の日、体育館の床が「ドン！ドン！」と踏みならされる行進練習の音が、校長室まで響いてきました。太子高校に赴任して3年目ですが、初めての事です。生徒の意気込みの強さですね。こういうことで体育館の床が抜けても、大いばりだなど、一人でほくそ笑んだことでした。（いやいや、事故を願っているのではありませんよ）